

## 1. 2019 年度事業報告

### 《19 年度事業総括》

2022 年 1 月の設立 20 年を視野に入れ、人材養成に力点を置く事業展開を心掛けた。具体的には、毎月定例の「芸術文化のまちづくりゼミ@古賀研究室」を開催したほか、「アートで人とまちをしあわせに」する活動を行う個人・団体を応援する「ぶっとびファン」を創設した。

また、アートによる地域共生社会の実現に向けた事業（高齢者施設、フリースクール、就労自立支援施設等での芸術活動）を、主として九州産業大学の研究活動との連携により展開した。

### I 芸術体験サポート

#### I-1 高齢者の芸術体験コーディネーター事業（継続・展開）

ダンスアーティスト・マニシア氏（アートサポートふくおか幹事）によるパーキンソン病患者を対象とした PD ダンス（パーフェクトダンス/パーキンソンドダンス）について、6 月に京都で開催された World Parkinson's Disease Congress に参加し、ポスター形式での発表を行った。また、パーキンソン病患者専門の高齢者施設「PD ハウス野芥」で毎週行われたダンス活動について、参加者の変化に関するレポートを作成した。

アートサポートふくおか協力会員が勤務する医療法人で、認知症患者のための芸術ワークショップ実施を目指し、まずは病院敷地内にある入居型高齢者施設での演劇ワークショップを実施した。

新たに、福岡市東区の市立文化施設「なみきスクエア」からの依頼により、「認知症カフェ しろうおカフェおれんじ」（多々良公民館）で音楽と演劇の体験型活動も実施した（II-2 に再掲）。

### II 芸術文化を通じた地域共生社会の実現

#### II-1 ホームレスの就労自立支援のための演劇によるコミュニケーション講座（継続）

就労自立を目指すホームレスの方を対象とした演劇ワークショップの成果を検証する科研費対象事業の第 2 ステージ（4 ヶ年）3 年目にあたり、フォーラムシアターの実施と「シアター」部分の映像化を行った。

#### II-2 フリースクールでの演劇ワークショップに関するコーディネーターと成果検証（継続・展開）

「なみきスクエア」（福岡市東区千早）主催事業として実施される、フリースクールにおける演劇ワークショップについて、コーディネーターと成果検証を担当した（2 年目）。

また、18 年度の同事業に関する成果検証報告の実績から、（公社）日本劇団協議会より「やってみよう！プロジェクト」の成果検証の依頼を受け、報告書へ寄稿した。

### III アートと地域をつなぐ人材養成

#### III-1 「芸術文化のまちづくりゼミ」の開催（継続・展開）

2006 年度から開始したコーディネーター養成講座の発展形である「芸術文化のまちづくりゼミ」を毎月定例の「@古賀研究室」と、ゲストを招き公共ホール等で開催する拡大版の 2 本立てとして実施した。「@古賀研究室」は第 3 火曜日の夜、九州産業大学の古賀研究室で 7 回開催（拡大版等主催事業を実施した月と新型コロナウイルス感染予防のため中止した 3 月以外は毎月実施）。毎回 7～11 名の参加があった。

拡大版は5月18日（土）大野城まどかぴあ小ホールで「公共ホール編 指定管理者制度の‘裏側’から見た公共ホール～事業予算ゼロの功罪!!～」(登壇者：大澤寅雄氏〔ニッセイ基礎研究所〕、出口亮太氏〔長崎市チトセピアホール館長〕、参加者50名)、10月27日（日）にJR博多シティ9階会議室3で「助成制度編～こんな助成制度つくりたいんですけど、どうでしょう?～」(登壇者：大澤寅雄氏、長津結一郎氏〔九州大学〕、古賀桃子氏〔NPO法人ふくおかNPOセンター代表・アートサポートふくおか監事〕、参加者22名)を開催した。

### Ⅲ-2 「ぶっとびファンド」の創設（新規）

既存の補助金・助成金制度の課題を突き、「アートで人とまちをしあわせに」する活動を行う個人・団体を応援する新たな助成制度として「ぶっとびファンド」を創設。16団体の応募を受けて公開によるプレゼンテーション&審査会を開催（1月23日〔木〕JR博多シティ10階会議室、一般参加者21名）。15団体を採択した。2021年春をめどに採択団体による報告会を開催予定。

### Ⅲ-3 学生による文化のまちづくり活動等支援（継続）

福岡県立ももち文化センター（ももちパレス）の主催事業である「ももちパレスオープンデー」（11月23日〔土祝〕開催）に、九州産業大学の学生と共に参加。劇団AFRICAによる公演のコーディネーター、学生によるワークショップの企画運営サポート等を行った。

### Ⅲ-4 他団体の人材養成事業等への協力（継続）

（研修講師等実績）

5月25日（土）福岡市美術館「つきなみ講座」鬼本佳代子学芸員との対談  
テーマ：美術館へのアクセス

11月7日（木）福岡未来創造プラットフォーム「子どもの貧困を科学する アートによる生活困窮支援」講師

11月24日（日）埼玉県芸術文化祭30周年記念シンポジウム「未来へ種をまく。ー芸術文化の役割を考えるー」登壇

12月18日（水）ベネッセコーポレーション「しまじろうコンサート」アドバイス

2月26日（水）大野城まどかぴあ支援三団体研修会「芸術文化がまちをつくる」講師

## Ⅳ 被災地に対する芸術文化を通じた復興支援事業（継続・展開）

熊本の月刊アート情報誌「ドコサ?」（編集長：坂口美由紀氏〔アートサポートふくおか幹事〕）への支援のほか、阪神淡路大震災、東日本大震災、熊本地震の被災地で、演劇を中心とする芸術文化ができることを考える「The First Action Project」によるネット配信「災害続きの日本で、今、アートを話してみる」に参加した。

## V 情報提供事業（継続・展開）

文化政策やアートマネジメントに関する情報をメーリングリストにより提供してきたが、メーリングリストを運営していた事業者のサービス停止を受け、12月からはアートサポートふくおか役員、協力会員ほか希望者を対象としたBCCメールによる情報提供へと変更した。同時にアートサポートふくおかのFacebookページを開設した。

また、協力会員を対象としたニューズレターを年4回（5月、8月、11月、2月）発行した。

## VI その他

### VI-1 文化政策に関するアドボカシー活動（新規）

福岡県文化芸術振興条例（仮）の制定に向けた県の動向に対し、有識者会議だけでなく多くの県民の声を届けるため、11月5日（火）に西日本新聞社会議室で「みんなで考えよう！福岡県文化芸術振興条例（仮）」を開催。大澤寅雄氏、長津結一郎氏の協力を得て、参加者25名によるワークショップと議論の結果を「福岡県の文化芸術振興に関する有識者会議」に届けた。

### VI-2 各種委員等（継続）

NPO法人の役員、行政の各種審議会等の委員及び各種相談業務、原稿執筆等の実績は以下のとおり。

（NPO関連委員）

NPO法人ふくおかNPOセンター監事

（行政関連委員）

芸術文化振興基金運営委員会文化施設公演活動等専門委員会委員

福岡県文化財保護審議会臨時専門委員

福岡県営筑後広域公園・芸術文化交流施設「九州芸文館」運営協議会委員

新・福岡県立美術館建設地選定委員会委員

福岡県の文化芸術振興に関する有識者会議委員

福岡市文化芸術振興財団理事

宗像市市民文化・芸術活動審議会委員（会長）

大野城市芸術文化振興審議会委員（会長）

大野城まどかぴあ第三者評価委員会委員

ミリカローデン那珂川リニューアル事業設計者選定委員会委員

いきいきおんが推進委員会委員（会長） ほか

（原稿執筆）

第4回「キビるフェス」報告書総括コメント